

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## イチゴ（育苗期）のハダニ類の防除対策の徹底について

イチゴの親株でハダニ類の発生が多くなっています。今後、気温の上昇に伴い、さらに増殖するおそれがあるので、下記を参考に、育苗期の防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

### 記

#### 1. 発生状況

- 1) 4月21日に実施した定期調査におけるハダニ類の寄生株率は33.5%（平成6.8%、前年6.2%）であり、平成より多い（図1）。
- 2) 福岡管区気象台が4月24日に発表した九州北部地方の1か月予報では、気温は高く、降水量は平成並か少ないと予想されており、今後、さらに増加するおそれがある。

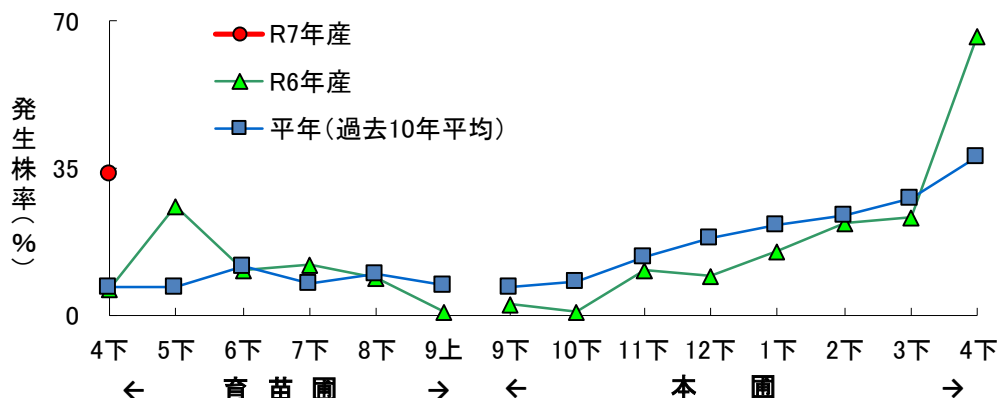


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

#### 2. 防除対策

- 1) これからの時期は土着天敵の活動が活発になるため、天敵への影響が大きい有機リン系・カーバメート系・合成ピレスロイド系薬剤の使用は避け、気門封鎖系薬剤を積極的に活用する（表1）。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が低いものが多いので、5～7日間隔での2回散布を1セットとし、発生状況に応じて数セット散布する。
- 2) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下のおそれが少ない気門封鎖系薬剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- 3) 幼苗期や苗が軟弱徒長している時、高温時、曇天が続く時や、薬液が乾きにくい夕方の日没前など、薬害が生じやすい条件での薬剤散布を控える。特に気門封鎖系薬剤のうち殺卵効果が認められる剤については注意する。

- 4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下のおそれが少ない気門封鎖系薬剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- 5) 薬剤散布の際には、農薬使用基準を遵守し、周辺圃場への飛散防止やミツバチ等に危害を及ぼすことがないように十分注意する。
- 6) ハダニ類は薬液がかかりにくい下葉の葉裏に多く寄生するので、薬剤散布前に古葉を除去した上で、薬液が葉裏にもかかるよう、十分量を丁寧に散布する。
- 7) ビニル雨よけ下で育苗を行っている圃場では、ハダニ類の発生が増加する場合があるため、特に発生状況を注視し、防除を徹底する。
- 8) 本圃でハダニ類が多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないように定植前までに防除を徹底する。

表1 イチゴハダニ類に対する主な気門封鎖系薬剤と殺卵効果

| 薬 剤 名     | 殺卵効果 <sup>注)</sup> |
|-----------|--------------------|
| 粘着くん液剤    | △                  |
| エコピタ液剤    | △                  |
| ムシラップ     | △                  |
| フーモン      | △                  |
| アカリタッチ乳剤  | △                  |
| ピタイチ      | △                  |
| サフオイル乳剤   | ○                  |
| サンクリスタル乳剤 | ○                  |

注) △…ナミハダニの卵に対して殺卵効果が低い、○…殺卵効果が認められる。  
横山ら(2021) 関東東山病害虫研究会報 68 : 56-58を参考に記載した。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail [nougyougijyutsu@pref.saga.lg.jp](mailto:nougyougijyutsu@pref.saga.lg.jp)

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病害虫総合防除計画掲載アドレス

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html>

防除セ QRコード\*



総合防除計画 QRコード\*

